

## 第2章

## 第2期計画の検証・課題

### 1 地域を取り巻く現状

#### ○ 富田林市の概況

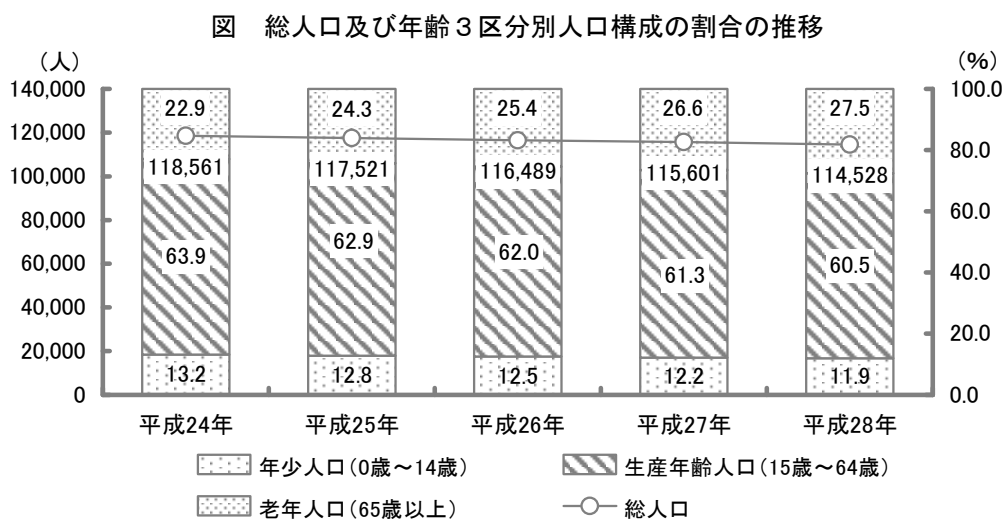
本市は、大阪府の東南部に位置し、大阪都心部から約20kmの距離にあります。市域の広がり、東西約6.4km、南北約10.1km、総面積は39.72km<sup>2</sup>となっており、地勢的には、市域のほぼ中央を南北に流れる石川によって形成された中央平野部と、金剛山系に連なる南部の山地部と西部の丘陵部で構成されています。昭和25(1950)年に市制が施行されてからは、高度成長期に西部の丘陵に大規模な住宅団地が相次いで造成され、これにあわせて都市基盤整備が進み、住宅都市として成長してきました。

#### ○ 人口・世帯状況などの動向

##### (1) 総人口及び年齢3区分別人口の推移

総人口の推移をみると、年々減少傾向にあり、平成24(2012)年に比べ、平成28(2016)年では、約4,000人減少し、114,528人となっています。

年齢3区分別人口構成の割合の推移をみると、平成24(2012)年以降も年々少子・高齢化が進み、平成28(2016)年には年少人口(0歳～14歳)は11.9%、老年人口(65歳以上)は27.5%となっています。



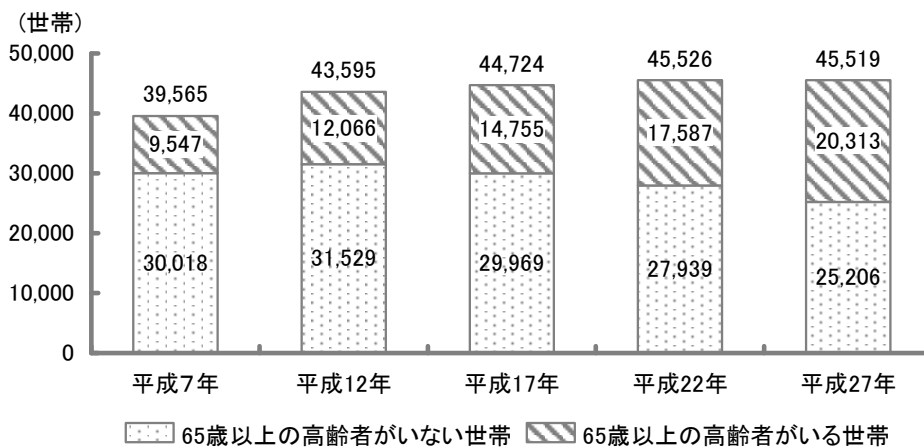
資料：住民基本台帳（各年4月1日現在）

注）四捨五入により、合計が100.0%にならない場合があります。

## (2) 世帯数の推移 ●●●

本市の一般世帯は増加を続けており、平成 27 (2015) 年には 45,519 世帯となっています。65 歳以上の高齢者のいる世帯は増加を続けており、平成 7 (1995) 年の 9,547 世帯から平成 27 (2015) 年の 20,313 世帯へと、20 年間で約 11,000 世帯増加しています。

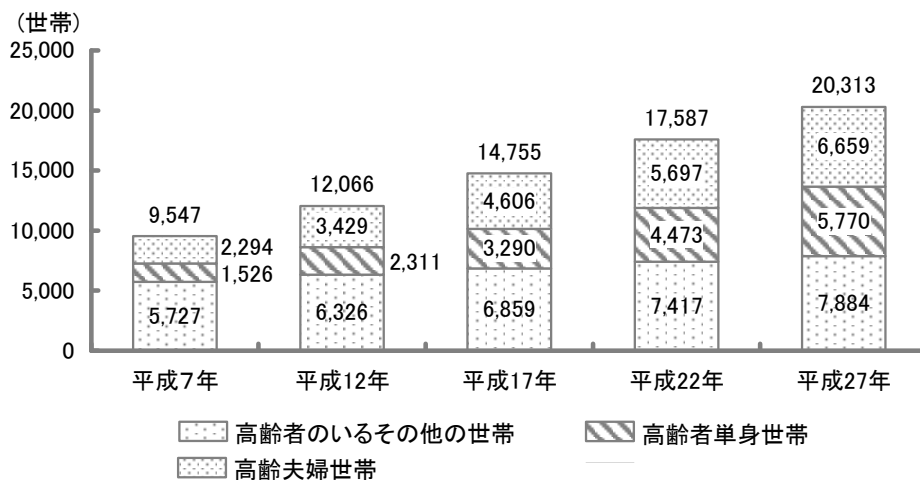
図 一般世帯の推移



資料：国勢調査（各年 10 月 1 日現在）

65 歳以上の高齢者のいる世帯の内訳をみると、高齢者単身世帯、高齢夫婦世帯が大きく増加しています。なかでも高齢者単身世帯は、平成 7 (1995) 年の 1,526 世帯から、平成 27 (2015) 年では 5,770 世帯と、約 3.8 倍の増加となっています。

図 高齢者のいる世帯の推移

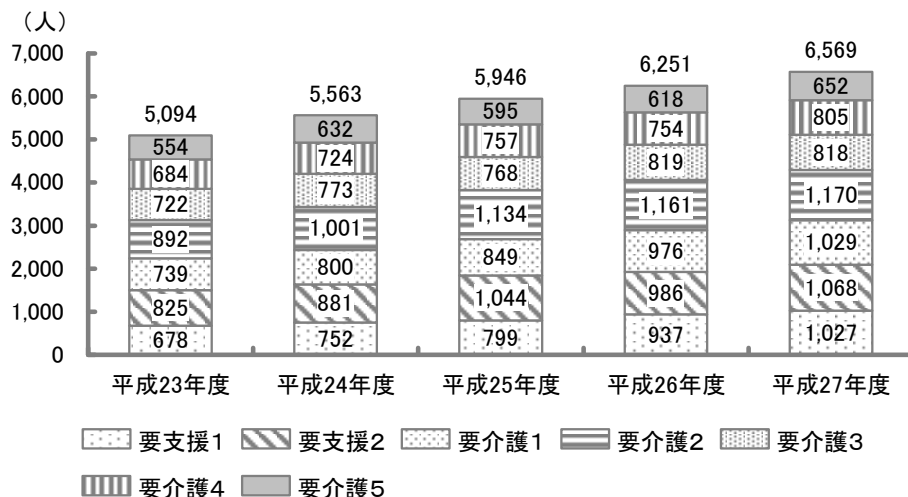


資料：国勢調査（各年 10 月 1 日現在）

### (3) 要介護認定者の推移 ●●●

要介護認定者数の推移をみると、高齢者数の増加に伴い、全体的にどの状態区分においても増加傾向にあります。

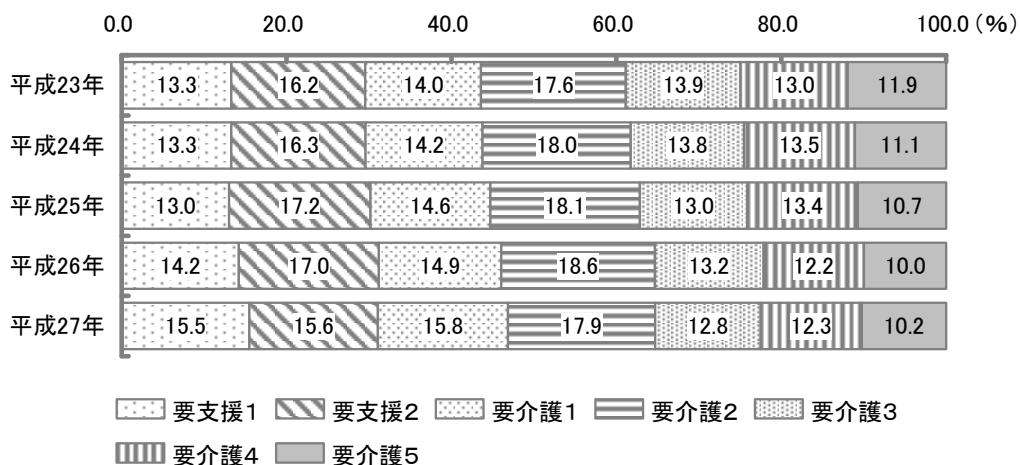
図 要介護度別認定者数の推移



資料：高齢介護課資料

要介護度別構成比の推移をみると、要介護3、要介護4および要介護5の占める割合がそれぞれ減少傾向にあります。とくに、要介護5については、平成 23（2011）年の 11.9%から平成 27（2015）年の 10.2%へと、1.7 ポイント減少しています。

図 要介護度別構成比の推移

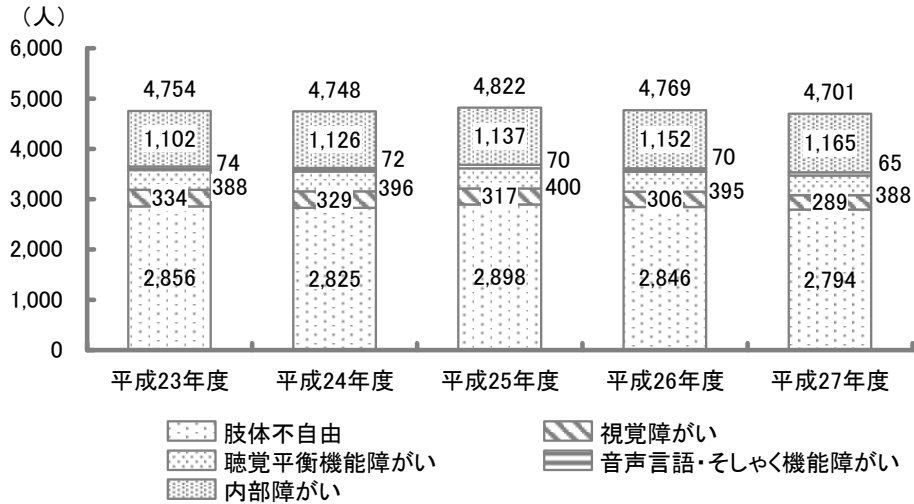


資料：介護保険事業状況報告（各年 9 月 30 日現在）

#### (4) 身体障がい者手帳所持者数の推移 ●●●

身体障がい者手帳所持者数の推移をみると、平成 25 (2013) 年度以降減少傾向となっていますが、内部障がいについては、増加傾向となっています。

図 身体障がい者手帳所持者数の推移

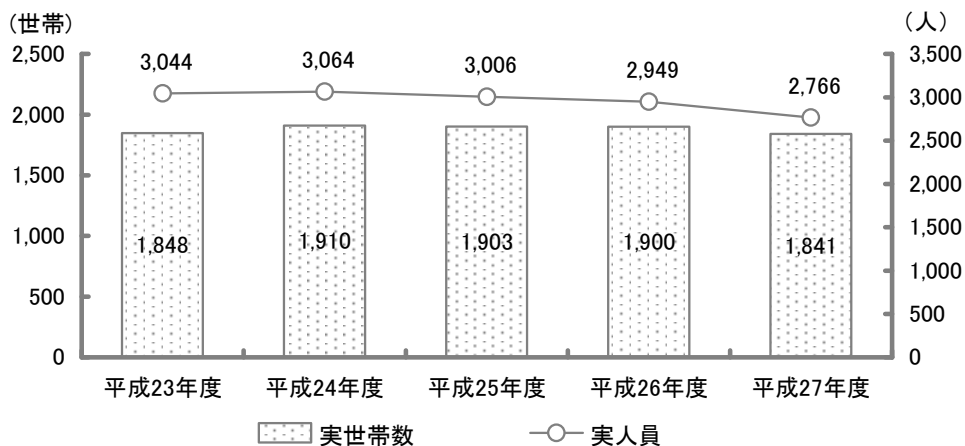


資料：大阪府統計年鑑、富田林市資料（各年度 3 月 31 日現在）

#### (5) 生活保護世帯の推移 ●●●

生活保護世帯の推移をみると、生活保護世帯数及び実人員ともに平成 24 (2012) 年度以降減少傾向となっています。

図 生活保護世帯数、実人員の推移

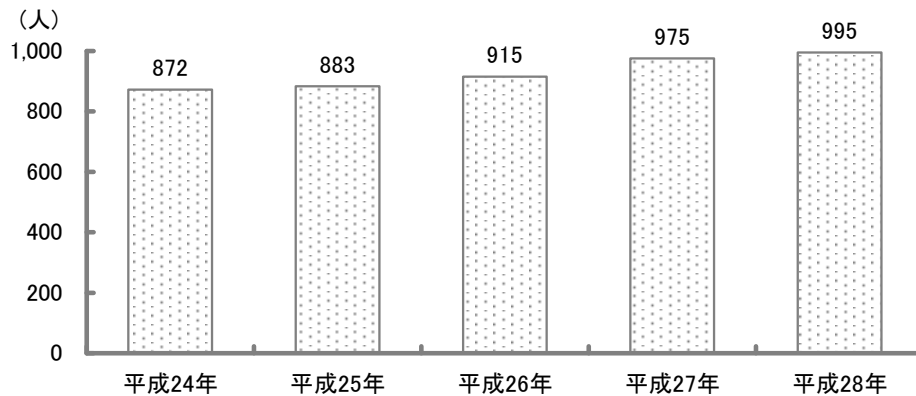


資料：大阪府統計年鑑、富田林市資料（年度平均値）

## (6) 外国人市民の状況 ●●●

外国人市民の推移をみると、平成24(2012)年度以降増加傾向となっており、平成28年では995人となっています。

図 外国人市民の推移

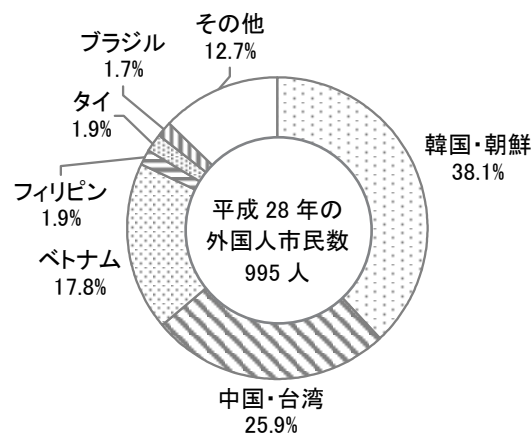


資料：住民基本台帳（各年4月1日現在）

## (7) 外国人市民の国籍 ●●●

外国人市民の国籍別割合をみると、韓国・朝鮮が38.1%と約4割を占めており、次いで、中国・台湾が25.9%、ベトナムが17.8%となっています。

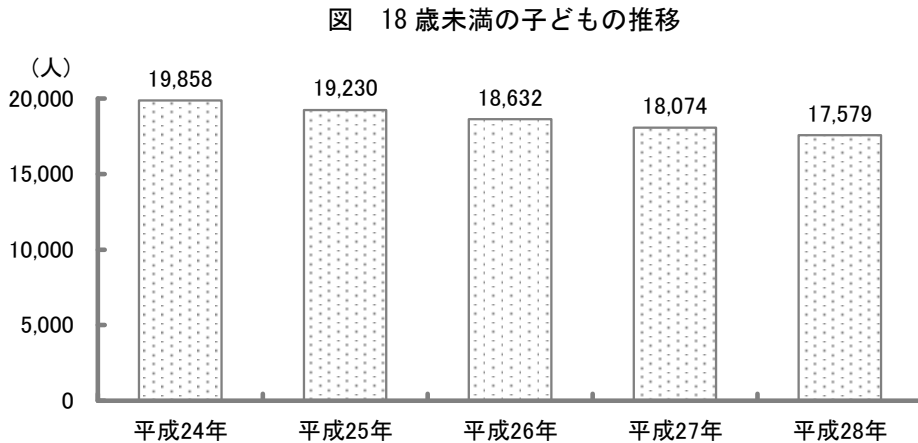
図 外国人市民の国籍別割合



資料：住民基本台帳（4月1日現在）

### (8) 18歳未満の子どもの推移 ●●●

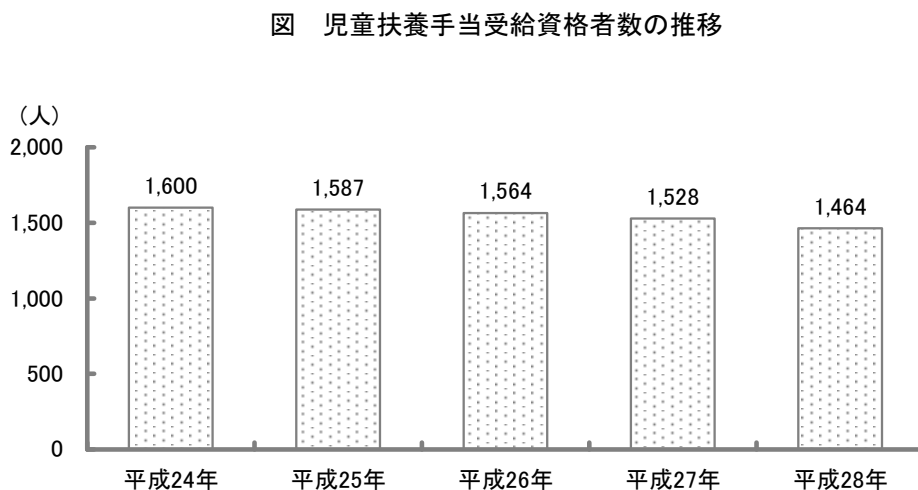
18歳未満の子どもの推移をみると、平成24年度以降減少傾向となっており、平成28年では17,579人となっています。



資料：住民基本台帳（各年4月1日現在）

### (9) 児童扶養手当受給資格者数の推移 ●●●

児童扶養手当受給資格者数の推移をみると、平成24年度以降減少傾向となっており、平成28年では1,464人となっています。



資料：こども未来室（各年3月31日現在）

## 2 市民意識調査、福祉活動者・福祉団体調査の概要

### I 調査の概要

#### 1 調査の目的

本計画の策定にあたり、市民の方々や、福祉活動者、福祉活動団体から、地域福祉に関する日常生活の現状や意識、福祉サービスや地域づくりに関する意見を聴き、本計画策定の基本資料とするため、意識調査を実施しました。

#### 2 調査対象

- ①市民意識調査：富田林市在住の20歳以上を無作為抽出
- ②福祉活動者調査：福祉活動に取り組んでいる方
- ③福祉団体調査：福祉活動に取り組んでいる団体・事業所

#### 3 調査期間

- ①市民意識調査：平成28（2016）年1月22日から2月8日
- ②福祉活動者調査：平成28（2016）年2月23日から3月8日
- ③福祉団体調査：平成28（2016）年2月23日から3月8日

#### 4 調査方法

郵送による配布・回収

#### 5 回収状況

|          | 配布数    | 有効回答数  | 有効回答率 |
|----------|--------|--------|-------|
| ①市民意識調査  | 2,158通 | 1,089通 | 50.5% |
| ②福祉活動者調査 | 165通   | 119通   | 72.1% |
| ③福祉団体調査  | 135通   | 86通    | 63.7% |

### 3 校区交流会議からの意見

#### (1) 校区交流会議の概要 ●●●

第3期計画の策定にあたり、はじめて校区交流会議を実施し、参加者から多様な意見をいただきました。

- ① 目的 本計画策定にあたって、地域の状況や、課題を出しあい、課題解決のために地域はどうなっていけば良いか理想的な地域について話し合いながら、地域の声をひろい上げていくことを目的として市内 16 小学校区で「校区交流会議」を開催しました。
- ② 構成員 町総代会理事、民生委員・児童委員の地区長・主任児童委員、校区・地区福祉委員長、民間の福祉施設（障がい者施設、介護施設、保育園等）・つどいの広場職員、公立小学校校長または教頭、すこやかネット、公立幼稚園・保育園園長、コミュニティワーカー、コミュニティソーシャルワーカー、地域包括支援センター職員、生活支援コーディネーター
- ③ テーマ ○今、住んでいる地域の気になる事柄について（課題）  
○どのようになっていけば良いか、望ましい状態（理想）
- ④ 実施概要

| 校区名    | 日時                                       | 開催場所     | 参加人数 | 話し合われた事柄や課題   |
|--------|--|----------|------|---|
| 高辺台校区  | 平成 28 (2016) 年<br>7月 11 日 (月)<br>午後 3 時～ | 高辺台小学校   | 9 人  | ・世代交代<br>・町内の関心について                                 |
| 新堂校区   | 7月 13 日 (水)<br>午後 3 時～                   | 人権文化センター | 12 人 | ・子どもの貧困<br>・地域と学校のコミュニケーション強化<br>・認知症高齢者の支援、包括とのコラボ |
| 彼方校区   | 7月 15 日 (金)<br>午後 3 時～                   | 彼方小学校    | 15 人 | ・少子高齢化<br>・災害と防災<br>・担い手不足                          |
| 東条校区   | 7月 21 日 (木)<br>午後 3 時～                   | 金剛コロニー   | 7 人  | ・情報に関すること<br>・人材に関すること                              |
| 錦織校区   | 7月 22 日 (金)<br>午後 3 時～                   | 錦郡小学校    | 12 人 | ・地域の見守りの目<br>・高齢者の買い物                               |
| 富田林校区  | 7月 27 日 (水)<br>午後 2 時～                   | 富田林市役所   | 11 人 | ・高齢者の活躍の場（場所や機会）<br>・道路や土地の活用について                   |
| 久野喜台校区 | 7月 29 日 (金)<br>午後 3 時～                   | 久野喜台小学校  | 15 人 | ・交流全般について<br>・災害について                                |



| 校区名   | 日時                | 開催場所              | 参加人数 | 話し合われた事柄や課題                                 |
|-------|-------------------|-------------------|------|---|
| 寺池台校区 | 8月2日(火)<br>午後2時～  | 寺池台保育園            | 9人   | ・子どものケア<br>・地域交流                            |
| 大伴校区  | 8月4日(木)<br>午後3時～  | コミュニティセンター「かがりの郷」 | 19人  | ・空き家<br>・災害<br>・世代間交流                       |
| 向陽台校区 | 8月5日(金)<br>午後3時～  | 保健センター            | 13人  | ・施設と地域の関わり<br>・おつきあい                        |
| 喜志校区  | 8月16日(火)<br>午後3時～ | わくわく富田林           | 13人  | ・子どもと高齢者との<br>世代間交流<br>・交通の便                |
| 藤沢台校区 | 8月17日(水)<br>午後2時～ | 藤沢台小学校            | 13人  | ・交通事情、子どもの<br>遊び場<br>・人と人とのつながり             |
| 小金台校区 | 8月18日(木)<br>午後2時～ | 富貴の里保育園           | 10人  | ・つながり<br>・地域づくり                             |
| 喜志西校区 | 8月24日(水)<br>午後3時～ | 喜志西小学校            | 15人  | ・子どもの支援<br>・交通の便                            |
| 川西校区  | 8月25日(木)<br>午後3時～ | 総合福祉会館            | 13人  | ・地域の子どものネット<br>ワーク<br>・スマホ使用による交<br>通事故を減らす |
| 伏山台校区 | 8月26日(金)<br>午後3時～ | 伏山台小学校            | 9人   | ・居場所づくり<br>・施設と地域交流及び<br>情報発信               |

合計  
195人

## (2) 校区交流会議からの主な意見 ●●●

ここでは、2つのテーマのうち「課題」についての主な意見をまとめています。もう一つのテーマである「理想」については、本計画の第5章「個別施策の展開」に盛り込んでいます。

### ① 高齢者の課題

- ・高齢化、独居生活の方が増えている
- ・高齢化が進み、事故や認知症、老老介護の方が増えている
- ・不安を抱えている高齢者が多い
- ・高齢化によって近所づきあいが希薄化している

### ② 子ども・若者の課題

- ・支援の必要な子ども家庭が増えてきているように思う
- ・子どもの遊び場所がない



- 子ども会に入る人も減っており、すでにない地区もある
- 登下校の見守りをしている子どもから挨拶がない
- 共働き家庭が多く、子育てがしにくい環境である
- 若者が他市に流出している

### ③地域づくり（交流）の課題

- 地域の行事に参加することがおっくうで、近所付き合いが面倒である
- 地区の役員・委員になる人が少なくなっている
- 近所付き合いがなく、あいさつすらしめない
- 若い世代の人が参加するきっかけがない
- 自治会活動などのボランティア意識が低い
- ボランティアの高齢化、担い手が少ない

### ④生活環境の課題

- 細い道でもスピードを出す車が多い
- 最近交通量が増えて、事故が心配である
- 大人の交通マナーが悪い
- 空き家が目立ち、環境が悪くなっている

### ⑤防犯・防災の課題

- 最近、暗い道等で犯罪が増えている
- 災害時の対策ができていない
- 災害（特に水害）について、指定避難所まで避難するのが遠い
- 防災への取り組みができていない
- 弱者に対する防災の取り組みができていない

### ⑥移動手段・買い物の課題

- 交通機関が不便である
- 交通弱者、買物難民が増加している
- 車が無くて買い物ができる所が少ない
- 交通機関の利用ができず不便で、駅まで遠い地域が大半である
- 店舗や病院など近隣になく、車がないと生活できない

## 4 第2期計画の検証と課題

第2期計画では、5つの基本目標と13の基本施策に基づき、計画を推進してきました。市民意識調査や福祉活動者・福祉団体調査、社会福祉協議会の取り組みなどから、第2期計画の検証を行い、校区交流会議で話し合われた事柄や課題をふまえて、本計画に向けた課題を整理しました。

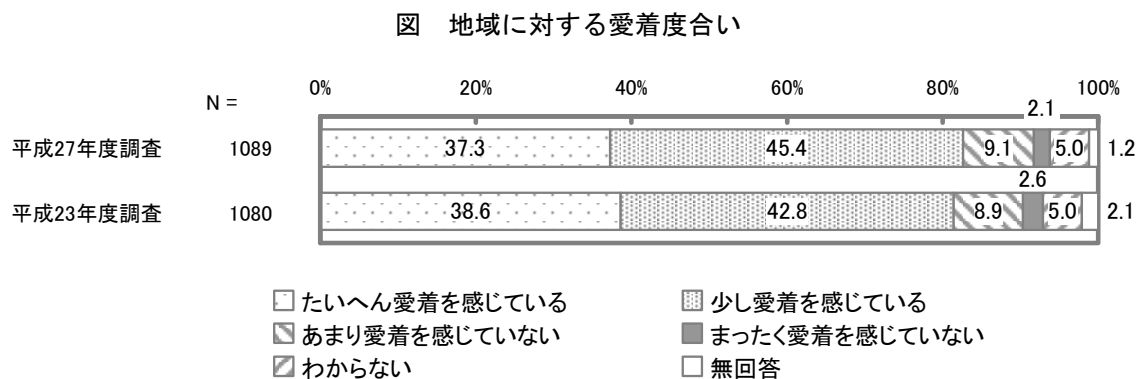
### 基本目標A お互いの顔が見え支え合う関係をつくろう・・・

#### (1) ふれあい・支えあいの関係づくり

地域に対する愛着度が増してきていますが、近所とあいさつ程度の軽いつきあいをする人が増加し、近所とのつきあいについて、積極的な考えを持つ人が減少しており、プライバシーへの考え方とともに近所づきあいの考え方が変化しています。

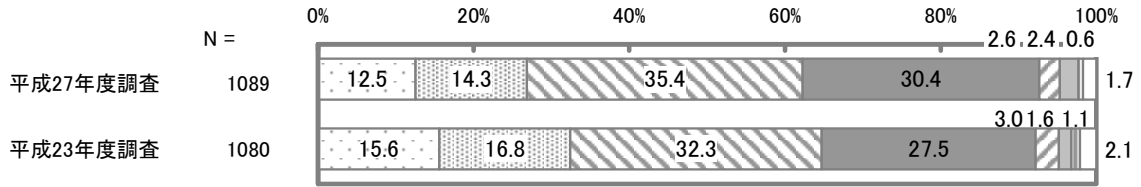
社会福祉協議会では、福祉共育冊子の作成や福祉共育新聞を発行し全小中学校に配布、学校、企業、地域の福祉教育（共育）を支援してきました。

今後も、学校教育における人権教育を含めた福祉教育の推進を図っていくとともに、暮らしやすい地域づくりにむけて市民の地域への愛着を高め、福祉に対する意識啓発を推進していく必要があります。



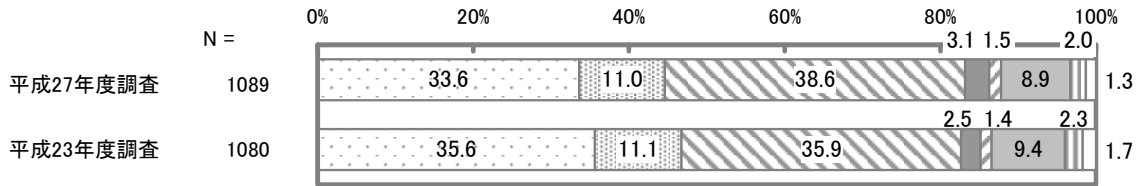
資料：平成27年度市民意識調査

図 近所とのつきあいの程度



- 特に用事が無くても行ききし、困ったときには助け合える人がいる
- 家庭の中までは入らないが、よく行ききする程度の人がある
- 顔が合えば、立ち話をする程度の人がある
- 顔が合えば、あいさつする程度の人しかいない
- 隣近所にどんな人が住んでいるのかわからない
- 近所づきあいはしない
- その他
- 無回答

図 近所とのつきあいについての考え方



- 近所づきあいは積極的にしたほうが良いと考えている
- 自分以外の家族がしているので、特にしようと考えていない
- 隣近所のことは干渉せず、つきあいもほどほどと考えている
- あまり隣近所とかかわりをもたたくないと考えている
- 近所づきあいそのものが面倒であると考えている
- 特に考えていない
- その他
- 無回答

資料：平成 27 年度市民意識調査

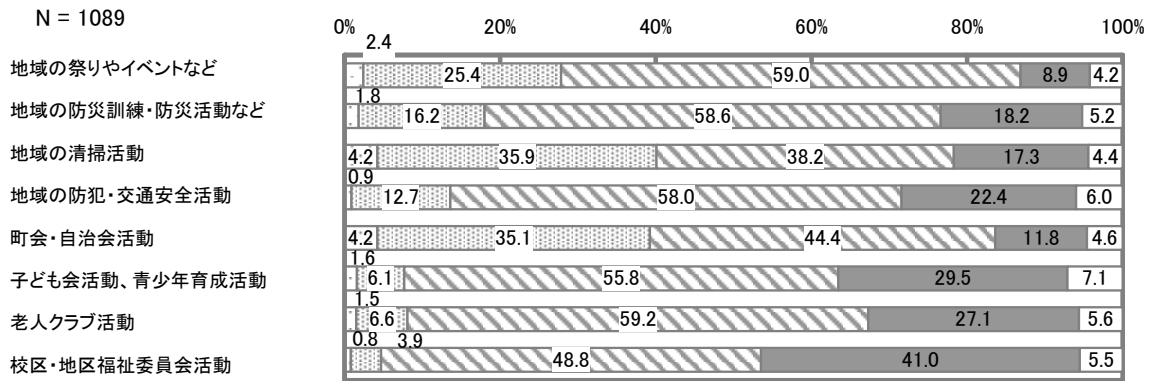
## (2) 地域福祉活動を通じた新しいコミュニティづくり

すべての地域福祉活動で参加していない人が増加しており、地域福祉活動が硬直化してきていると考えられます。

地域にはさまざまな地域福祉活動団体があり、これらの団体が連携・協力していくことが、コミュニティの形成につながっていくことから、団体や地域住民間同士の連携が重要となります。

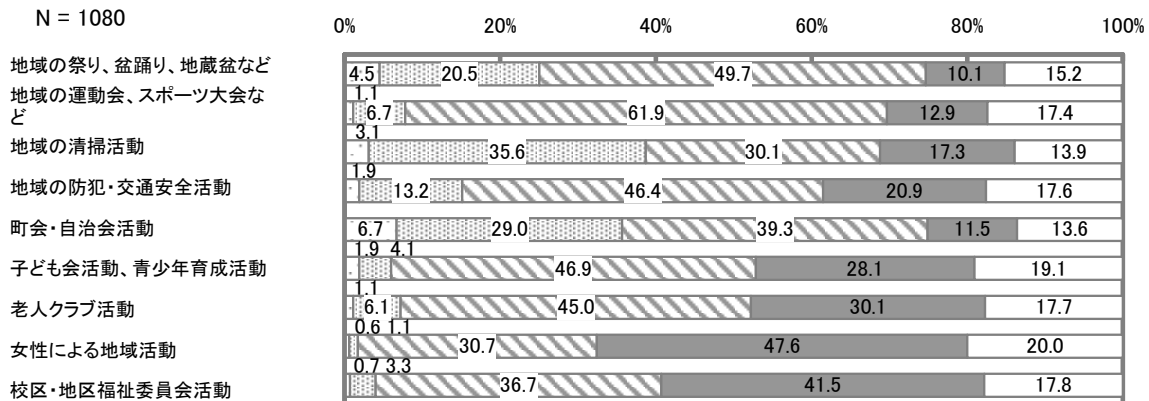
また、地域のつながりが希薄化している中で、地域福祉活動や地域の行事などのふれあいや交流を活発にしていくことにより、地域のつながりを深めていくことが必要であり、気軽に集まることができる場所の確保が重要となります。

図 地域福祉活動への参加状況（平成 27 年度調査）



資料：平成 27 年度市民意識調査

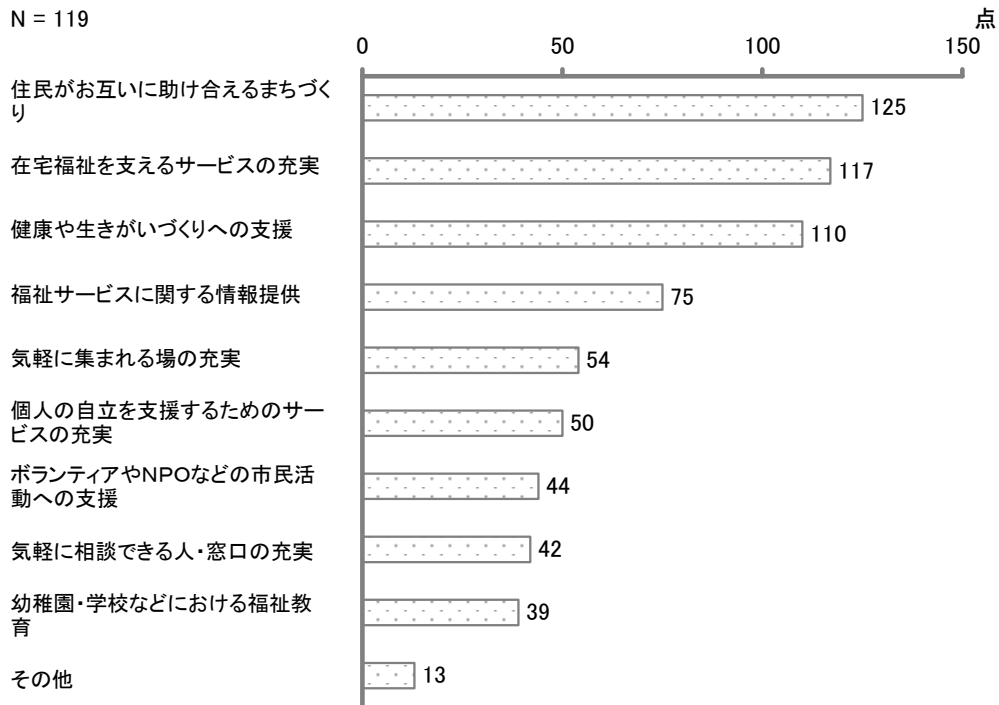
図 地域福祉活動への参加状況（平成 23 年度調査）



- 企画・運営等に中心的に関わっている
- 企画運営等にはかかわっていないが、活動には参加している
- 活動があることは知っているがほとんど参加していない
- 活動があること自体知らない
- 無回答

資料：平成 23 年度市民意識調査

図 富田林市の福祉で重点にすべきこと



資料：平成 27 年度福祉活動者調査

## 基本目標B 一人ひとりの力を地域で生かそう・・・

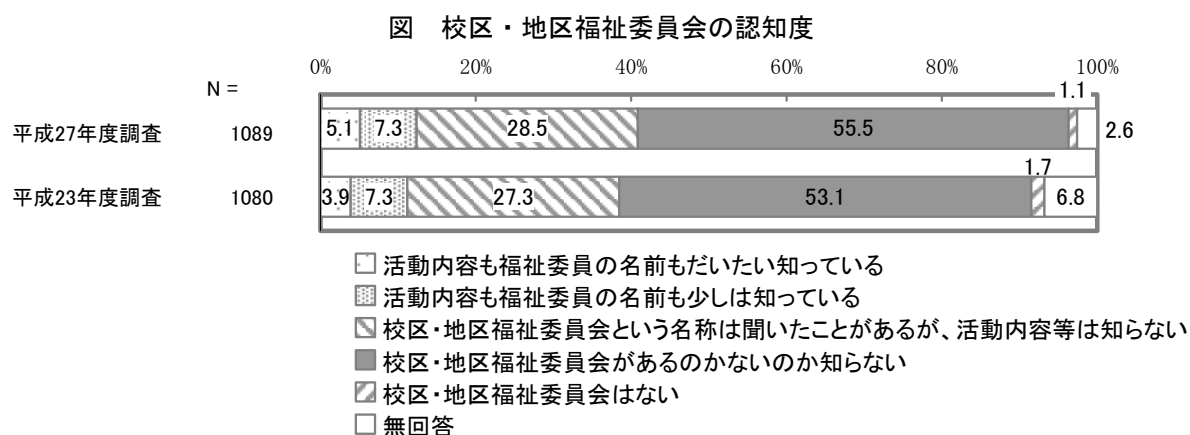
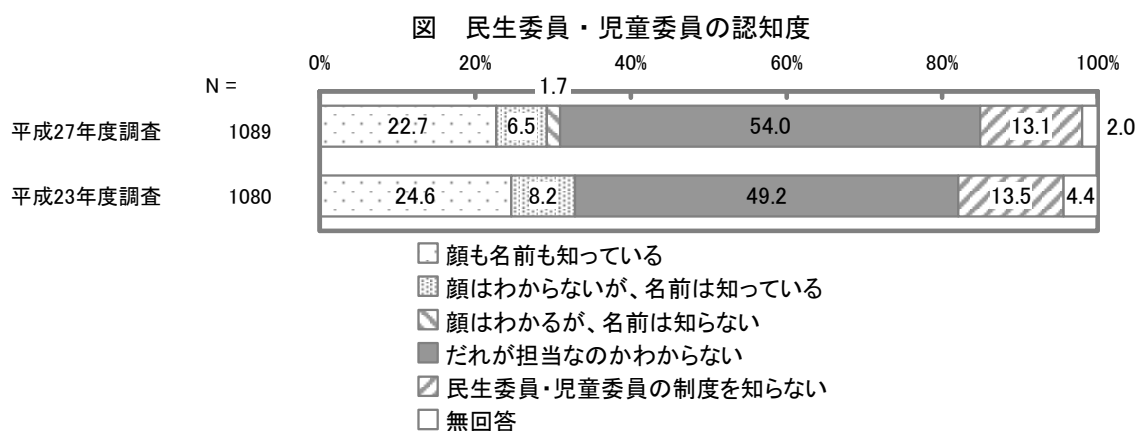
### (1) 地域福祉活動に参加するきっかけづくり

地区の民生委員・児童委員を知っている割合が低下しており、地域福祉活動を担う団体の認知度の向上が必要です。

地域を支える主役は住民です。しかし、ライフスタイルの多様化や価値観の違いなどによって地域福祉活動に参加するきっかけは少なくなっています。

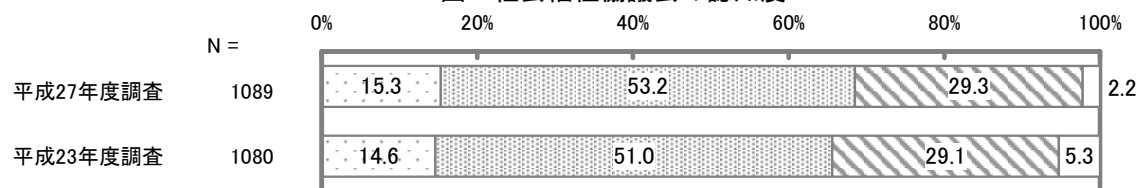
そして、地域に携わるきっかけとして、町会・自治会活動、清掃活動などがあります。それらの活動から、地域福祉活動への参加へと裾野を広げていくことが必要です。さらに、住民が地域福祉に関心をもち、自ら参加できるような機会を設けることが必要です。

また社会福祉協議会では大学や企業等に対し連携及び協働、参加を呼びかけ、地域福祉活動への参加を促進してきました。今後も、地域のさまざまな活動団体や大学、企業に対する働きかけとともにその機会づくりを行っていくことが必要です。



資料：平成27年度市民意識調査

図 社会福祉協議会の認知度



- 名前も知っているし、活動内容もだいたい知っている
- 名前は聞いたことがあるが、活動内容はほとんど知らない
- 富田林市に社会福祉協議会(社協)があるのかわからない
- 無回答

資料：平成27年度市民意識調査



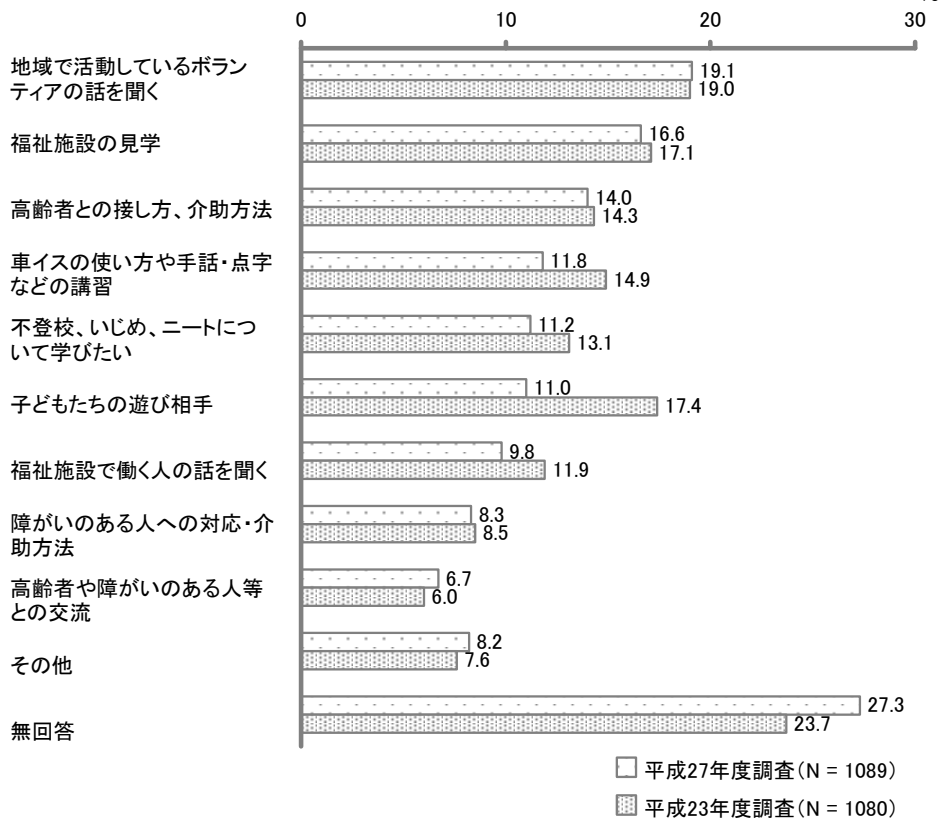
## (2) ふれあい・支えあいの担い手づくり

ボランティアの話や福祉施設の見学に興味がある人は高い割合を維持しており、地域福祉の担い手として活動するために学びたいことの上位となっています。

また、少子高齢化が進んでいる中、地域福祉の担い手にも高齢化のきざしが見えています。さらに、活動内容も代わり映えがしない等の課題もあります。「ボランティアの話聞く」「福祉施設見学」等を希望する人は潜在的に新たな担い手となりえることから、福祉への興味を活動に結び付けるきっかけを提供し、地域住民が自主的に活動を行っていくことができる地域福祉をめざしていくことが必要です。

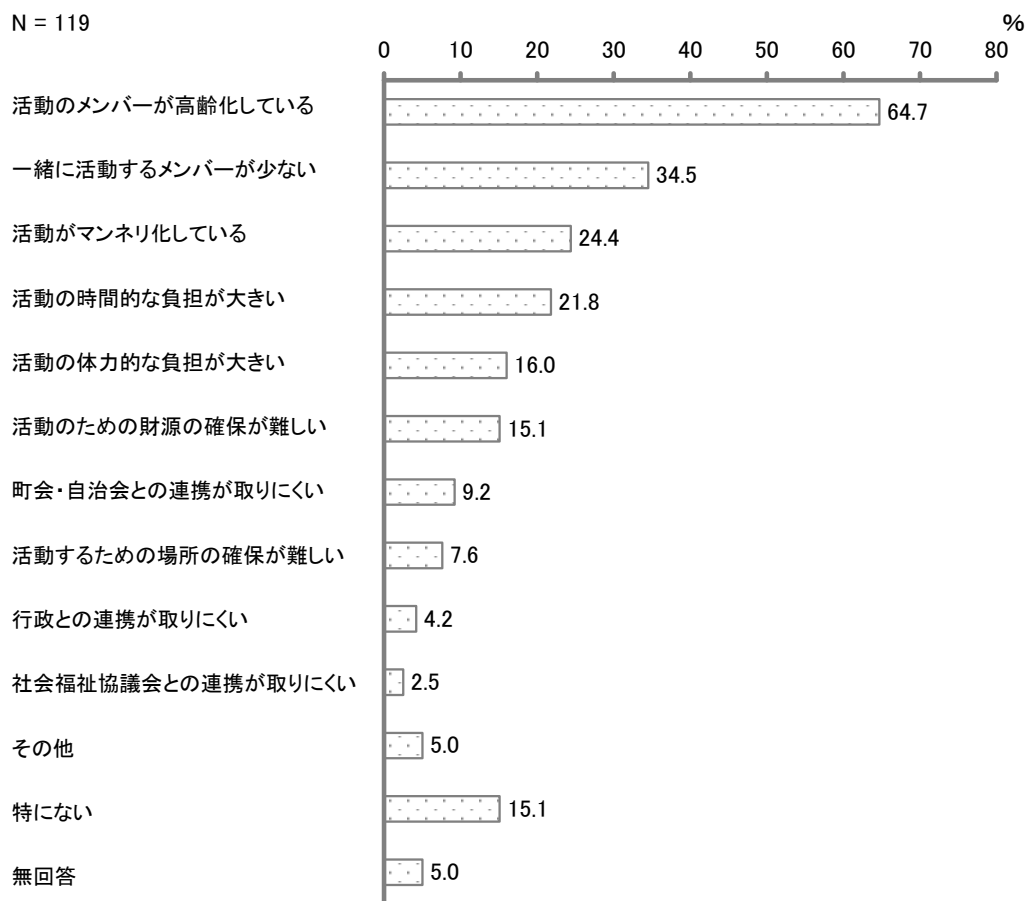
また社会福祉協議会では、地域福祉活動の中核を担う人材づくりのため、「住民参加型生活援助 いっぽく（一福）システム」をスタートさせ、個々の力を活かせるボランティアの育成に努めてきました。引き続き地域福祉の担い手の確保に努めるとともに、地域福祉活動の意義を再確認し、新たな活動の場の提供を進める必要があります。

図 地域福祉の担い手として活動するために学びたいこと（複数回答） %



資料：平成27年度市民意識調査

図 福祉活動者の活動上で困っていること（複数回答）



資料：平成 27 年度福祉活動者調査

### (3) 地域福祉活動団体等に対する支援の充実

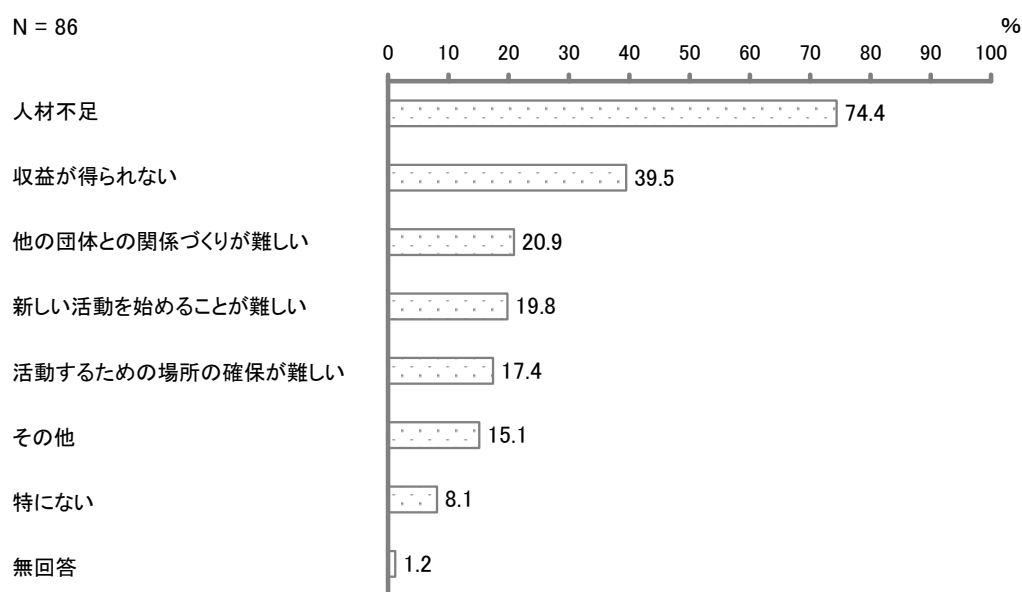
人材不足、収益性の低さ、他団体との関係づくりなどを活動上の課題とする福祉団体の割合が高くなっています。

社会福祉協議会では、福祉活動希望者の情報収集を行うなど、社会貢献を希望する団体等と地域を結び地域福祉活動を支援してきました。

今後も、地域福祉において重要な位置づけとなる福祉団体の活動を活性化し、地域福祉を推進するための、団体活動の周知・啓発や、充実が必要です。

また、団体を率いていくためのリーダーの発掘や、活動の幅を広げるためのスキルアップへの支援が必要です。

図 福祉団体の活動上の問題点・課題（複数回答）



資料：平成 27 年度福祉団体調査

## 基本目標 C 安全に安心して暮らせる環境をつくろう・・・

### (1) 地域住民による防災対策の充実

災害時への備えとして日ごろから地域でのコミュニケーションを重視する人の割合が上昇しています。災害時において住民の安全を確保するためには、平常時よりお互いの顔がみえる近隣関係を築いておくことが必要です。そのため、日ごろからの声掛け、あいさつなどを促進する必要があります。特に、避難行動要支援者にとって地域の助けは安全確保に不可欠であることから、近隣関係を密にすることが必要です。

また、平常時の備えとして防災訓練がありますが、防災訓練に参加していない人は6割をこえています。社会福祉協議会では、災害ボランティア講座を開催するなど、災害ボランティアグループが立ち上がり、災害時を想定した平常時の地域支援体制の強化を進めるとともに、地域住民による防災対策を図ってきました。

今後も、住民同士が災害時に力を合わせられるよう防災訓練への参加を促進することが必要です。

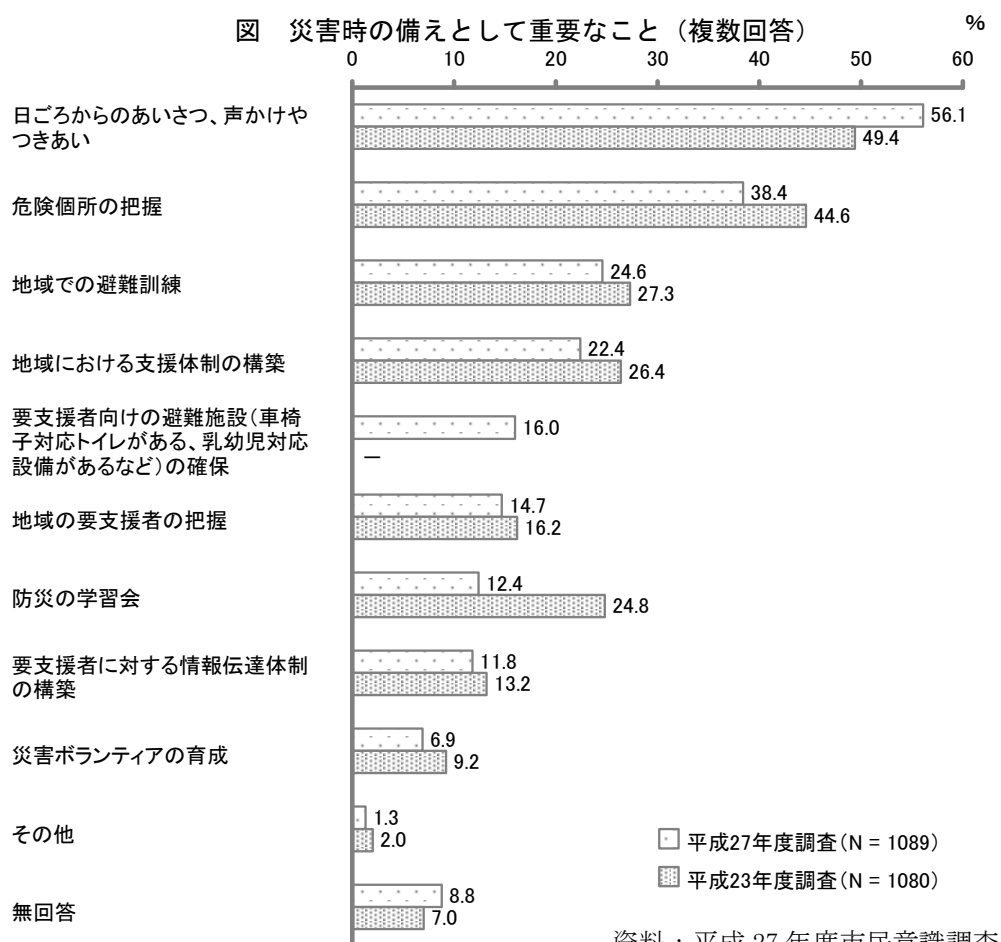
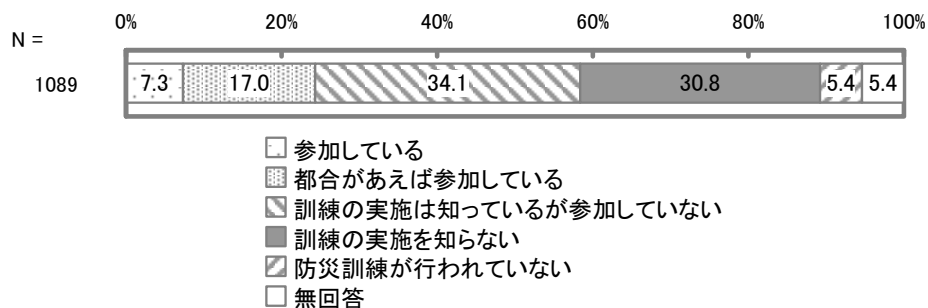
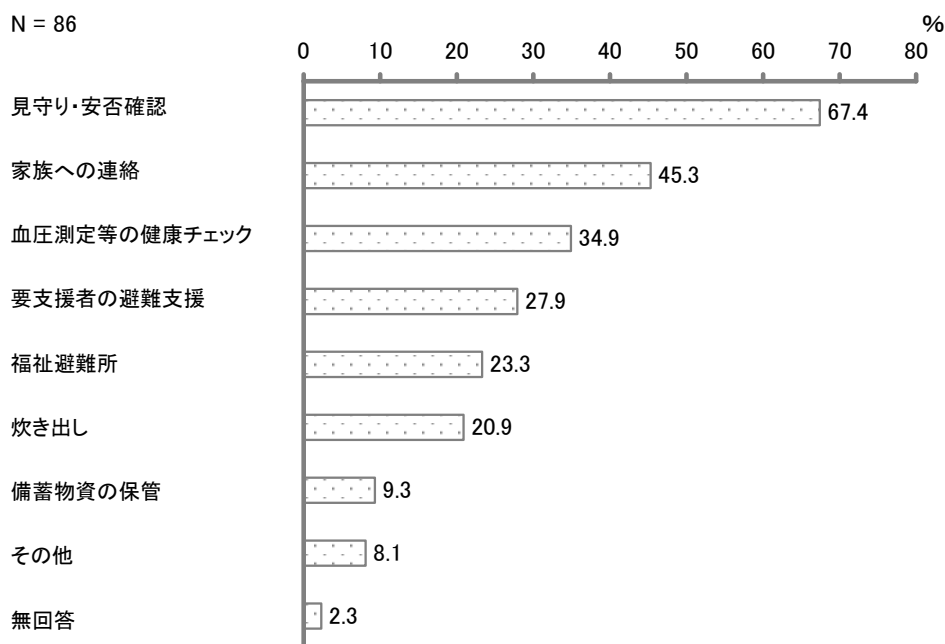


図 防災訓練への参加状況



資料：平成 27 年度市民意識調査

図 避難行動要支援者への救助活動や支援について団体・事業所として協力できること（複数回答）



資料：平成 27 年度福祉団体調査

## (2) 地域住民による防犯対策の充実

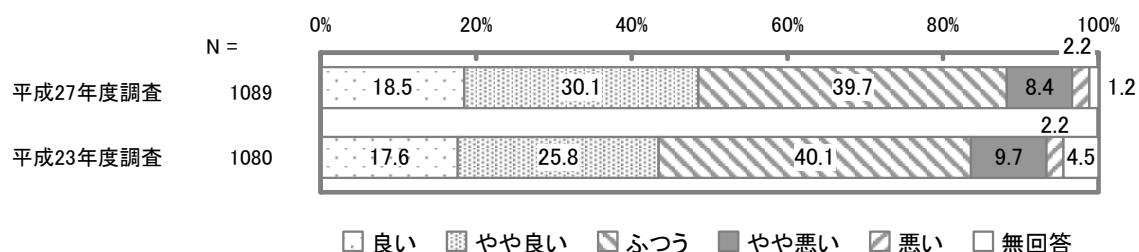
自分が住んでいる地域の防犯状況を「良い」・「やや良い」と評価している人が増加している一方で、「やや悪い」・「悪い」と評価している人が1割います。居住地域の都市化や犯罪の巧妙化に対応するよう、防犯対策を充実していくことが必要です。

また、子どもの安全確保について、見守り活動や「子ども110番の家」運動も展開されていますが、昨今の高齢化により担い手の確保が課題となっています。

そして、最大の防犯は、隣近所の人が顔の見える関係を構築し、不審者などを見つけやすくすることです。防災のためのみならず、防犯のためにも声かけなどが必要です。

社会福祉協議会では、市内の郵便局、配食サービス、新聞配達業などが地域住民を支え、見守る、地域見守り協定に参画しています。今後もネットワークの構築を促進し、地域住民による防犯対策を促進していくことが必要となります。

図 居住地域の生活環境の評価  
防犯（犯罪の少なさ）



資料：平成27年度市民意識調査

## 基本目標D さまざまな支援が受けやすい地域にしよう・・・

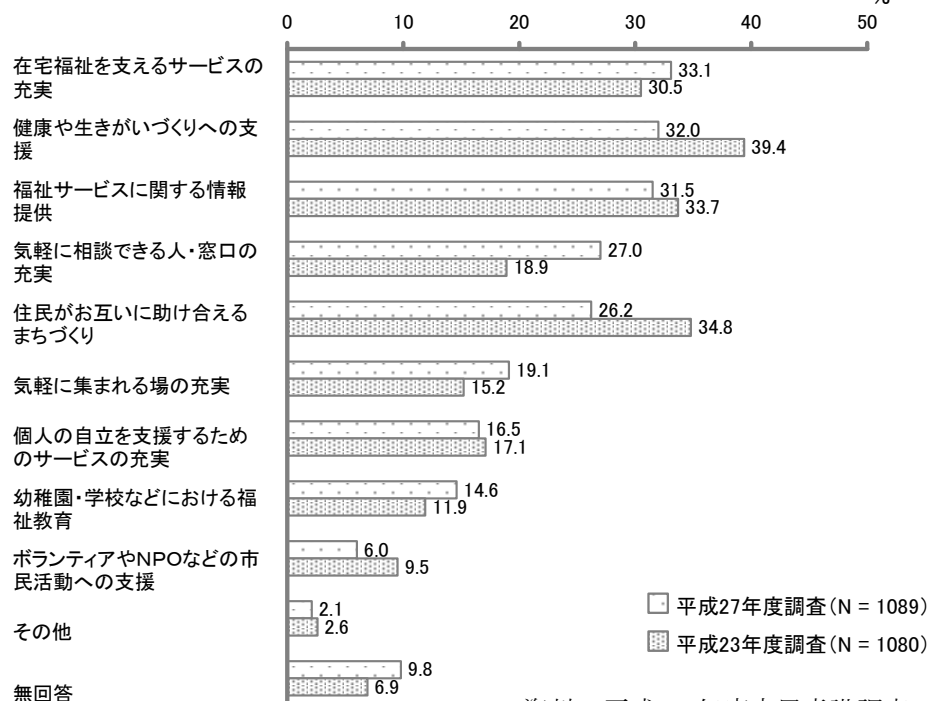
### (1) 相談機能と情報提供の充実

本市の福祉で重視すべきこととして、「気軽に相談できる人・窓口の充実」を挙げる人の割合が上昇しています。住民が安心してその地域に住み続けるには、いつでも気軽に相談できる場所があることが必要です。相談相手は「家族、親族」や「知人、友人」との回答が多くなっていますが、核家族化が進み、また単身世帯が増加している近年では、家族や親族以外の相談場所の重要性は一層増えています。そして、ライフスタイルが多様化している近年においては、住民一人ひとりが抱える生活課題も多様化・複雑化しています。住民一人ひとりの不安に対応できるよう、相談機関の専門性の向上が必要です。

また、住民が生活課題を抱えた場合、すみやかに福祉サービスを受けられるよう、情報提供の方法等の検討を行い、福祉サービスの情報を手軽に手に入れられるようにしておくことが必要です。

本市では、コミュニティソーシャルワーカー配置の再編として、平成25年度から社会福祉協議会に委託し、6名を配置しました。また支援を必要とするあらゆる人の相談に対応するべく、「福祉なんでも相談窓口」を福祉委員会等のイベントにて随時開催してきました。今後も引き続き、必要なサービスや専門機関へのつなぎをするなど、要援護者の課題を解決するための支援が必要です。

図 これからの富田林市の福祉で重点にすべきと思うこと（複数回答）



資料：平成27年度市民意識調査

図 不安や悩みを抱えたときの相談先（複数回答）

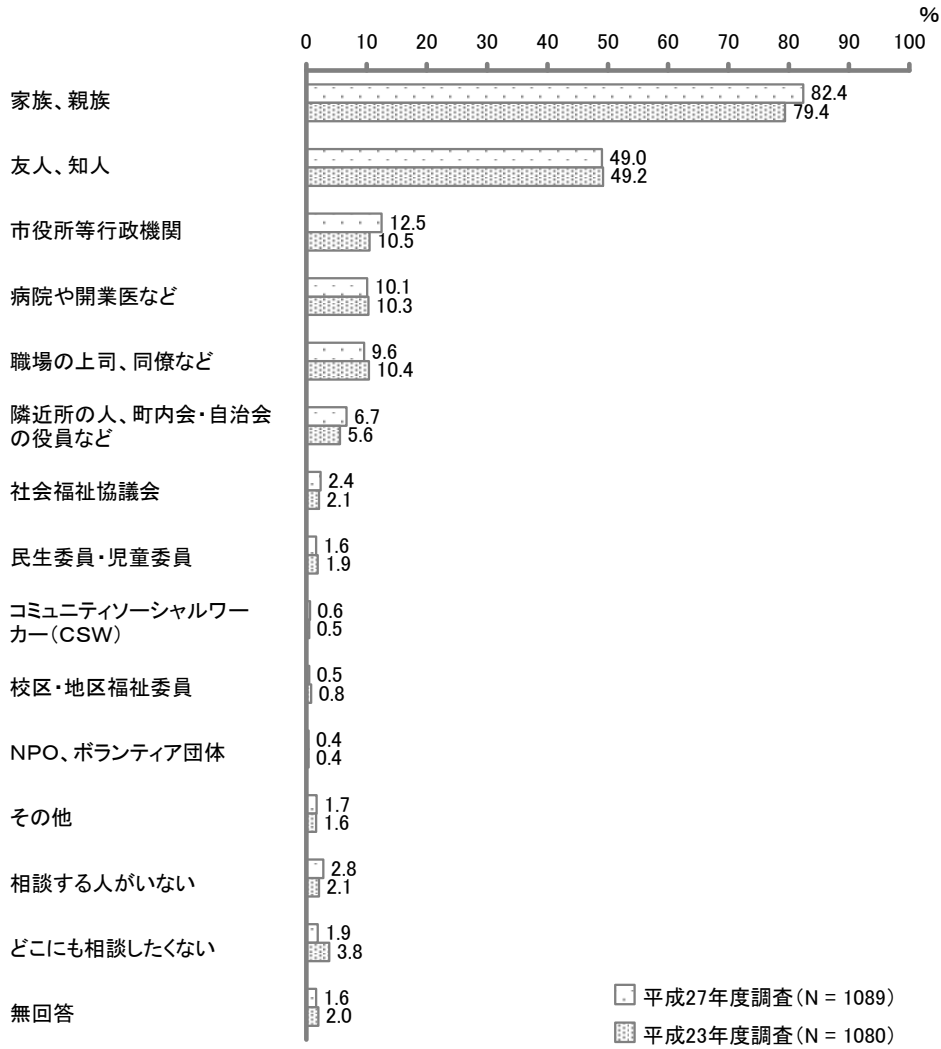
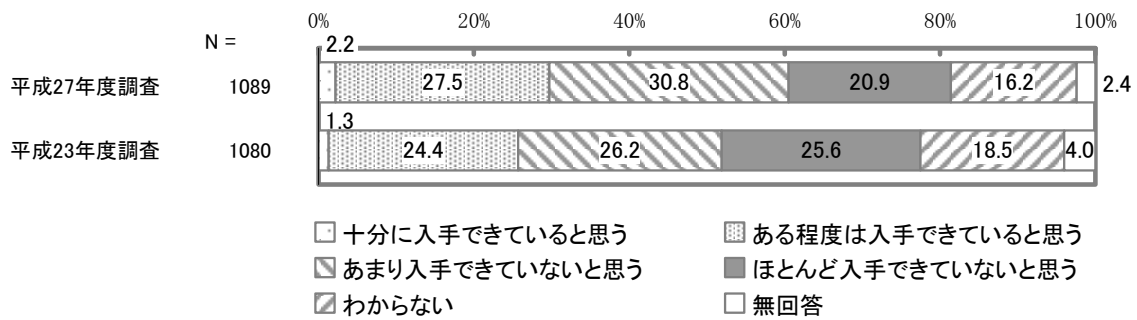


図 福祉サービスに関する情報の入手状況



資料：平成27年度市民意識調査



## (2) 課題把握と対応体制の充実

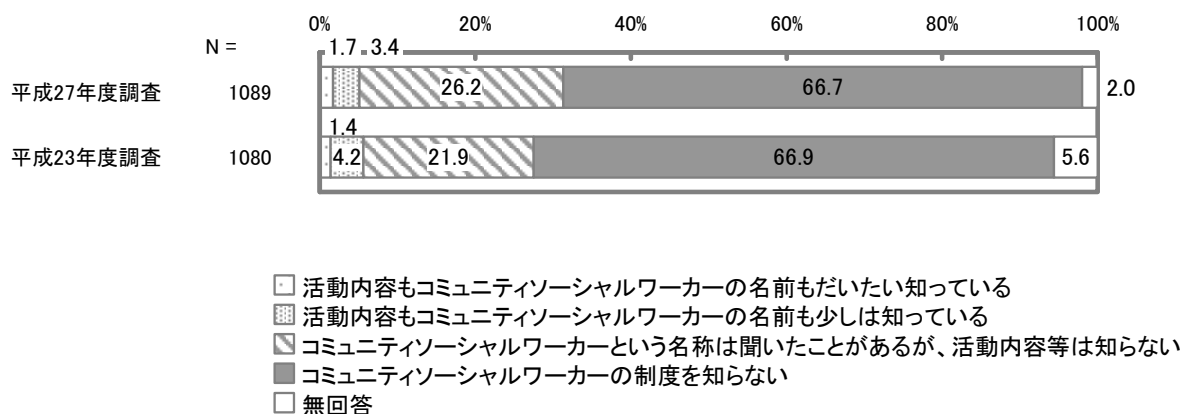
地域課題を把握し、さまざまな支援等につなげていく中で、コミュニティソーシャルワーカーの役割は大きなものとなります。コミュニティソーシャルワーカーの名称を知っている人の割合は上昇していますが、活動内容まで知っている人の割合は非常に低く、わずかに減少しています。コミュニティソーシャルワーカーの役割の周知が必要です。

また、問題を抱えていてもそれが知られないままになっていることや、児童虐待、高齢者虐待の問題も増えており、多様化・複雑化する福祉のニーズに対応できる地域でのしくみづくりが必要です。

社会福祉協議会では、「福祉施設連絡会」を設置しました。地域交流の必要性や災害発生時の地域との連携など共通課題を発掘し、市内のさまざまな社会福祉法人がその特性を活かし、地域福祉の向上を図ってきました。

今後も、要保護児童対策地域協議会、地域包括支援センターなど福祉組織をネットワーク化するなど、地域課題を早期に発見し、対応できる体制を整えることが必要です。

図 コミュニティソーシャルワーカーの認知度



資料：平成27年度市民意識調査

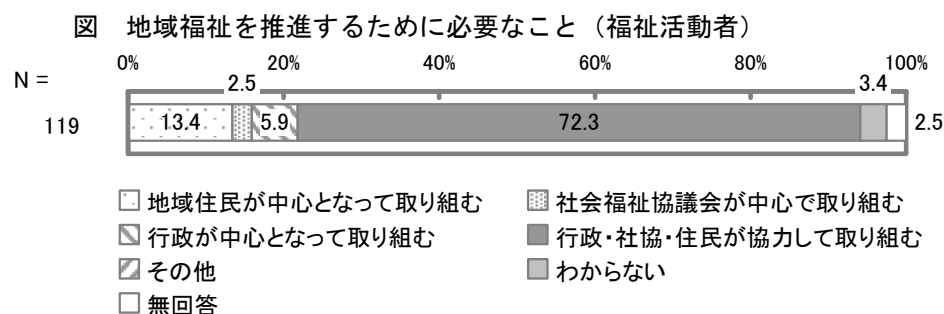
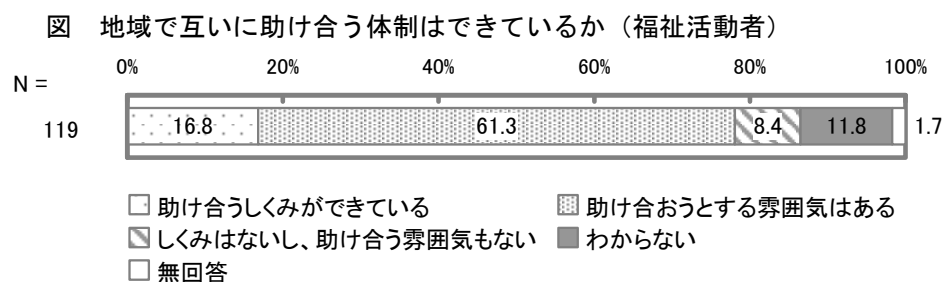
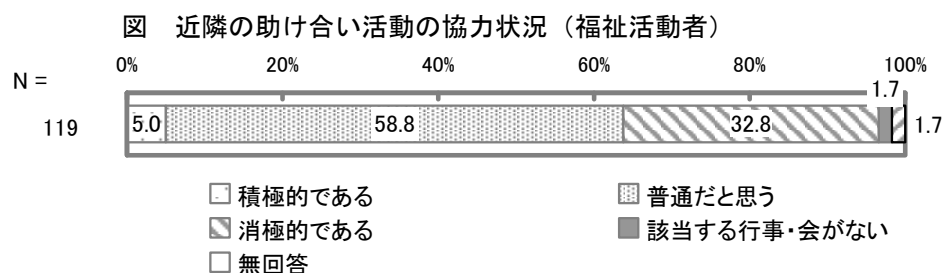
## 基本目標E 誰もがともに生活するまちをつくろう・・・

### (1) 地域による支え合いづくり

福祉活動者においては、近隣の助け合い活動は消極的と評価する割合が高い一方、助け合おうとする雰囲気があるという割合も高くなっています。地域福祉の推進には行政・社会福祉協議会・住民の協力を重視する割合が高いことから、行政・社協が住民の参加を促し、協働して地域福祉を推進していくことが必要です。

さらに、住民の抱える生活課題が複雑化しているため、福祉サービスへのニーズも多様化しています。一人ひとりのニーズに対応するため、柔軟に対応できるサービスの充実が求められています。社会福祉協議会では、校区交流会議への参画などにより、地域住民と地域内の社会福祉施設、NPO、地域包括支援センターなどの相談専門機関と相互協力できるよう働きかけを行ってきました。

今後も、福祉を支える多くの活動団体同士の連携を図りながら、多様な福祉サービスを提供していくことが必要です。



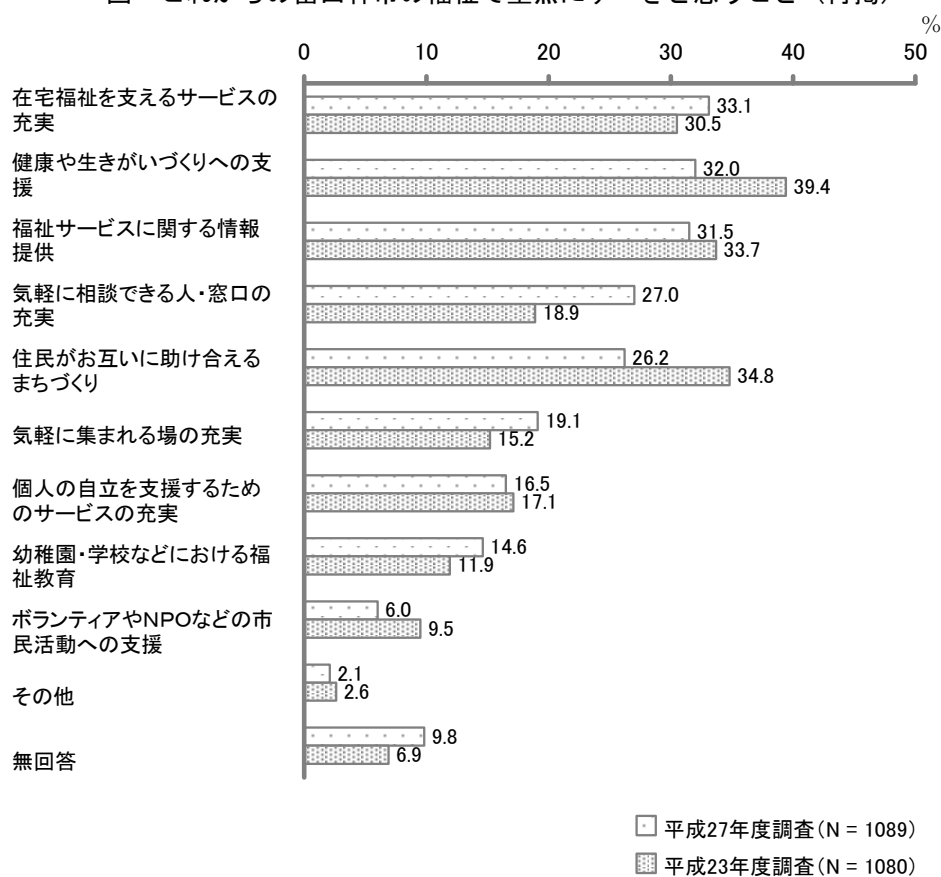
資料：平成 27 年度福祉活動者調査

## (2) 高齢者、障がい者、子育て支援サービス等の充実

高齢者、障がい者、子育て支援については、行政にしかできないサービス提供もあります。しかし、日常でのきめ細かな福祉については住民だからこそできることがあります。

これからの福祉で重点的にすべきと思うことについても、在宅福祉を支えるサービスの充実を求めることが多いことから、福祉サービス事業者の新たな参入を促進するとともに、今後もさまざまなボランティア団体等の活動を、よりいっそう活発化し、充実させていくことが求められます。

図 これからの富田林市の福祉で重点にすべきと思うこと（再掲）



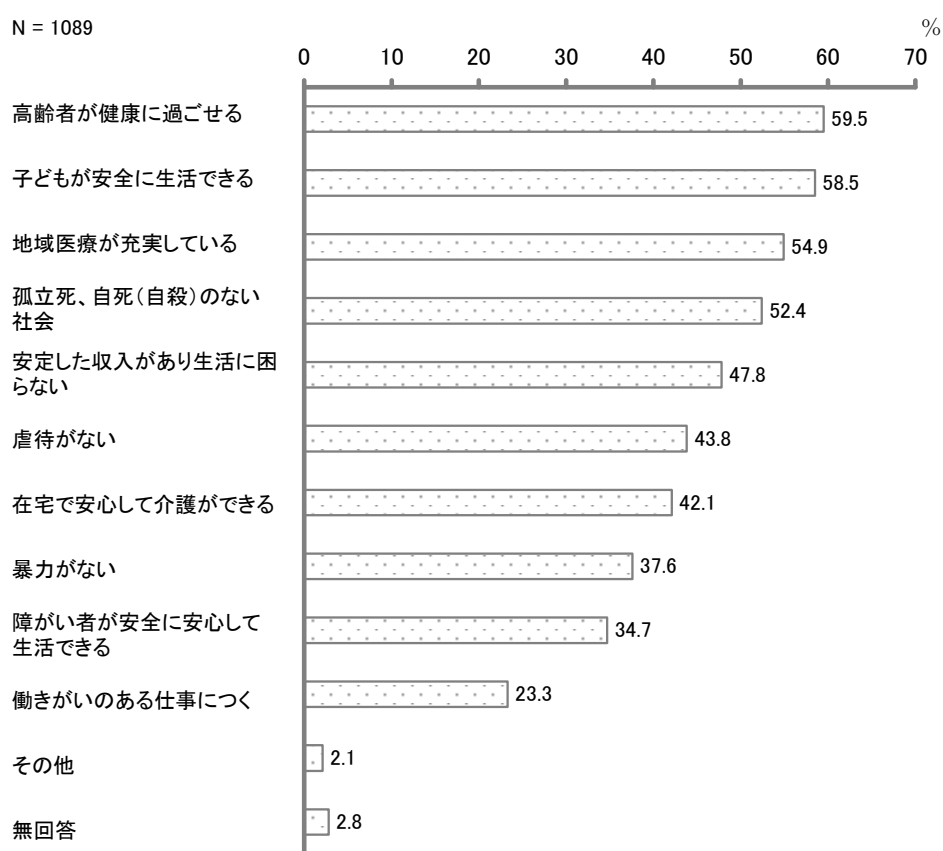
資料：平成27年度市民意識調査

### (3) 権利擁護の充実

判断能力が不十分な高齢者や障がい者などが尊厳をもって生活できるよう、必要な支援が受けられることが必要です。また、日常生活自立支援事業、成年後見制度などの制度が適切に利用されるように周知・啓発することが重要です。

また、近年、大きな問題となっている虐待等についても、被害者を早く救済できるように関係機関の連携が必要です。

図 今後、どのような福祉になっていくべきか（複数回答）



資料：平成 27 年度市民意識調査

#### (4) 交通、施設における福祉のまちづくり

交通の利便性、道路の安全性・歩きやすさを悪いと感じている割合が上昇しています。地域ですべての人がいきいきと暮らしていくためには、障がいのある人、高齢者、子どもを含むすべての人が気兼ねなく交通機関や施設を利用し、行動範囲を限定されないことが必要です。

社会福祉協議会では、とんだばやし街角トイレ運動の展開や、まちかどふれあいベンチの設置など、高齢者や障がい者等の外出の機会や地域コミュニティの促進に取り組んできました。

今後も、ユニバーサルデザインを導入するなど、すべての人が利用しやすい施設、道路を整備することが必要です。また、一人で外出できない人の外出支援を充実することが求められます。

図 居住地域の生活環境の評価

##### 交通の利便性

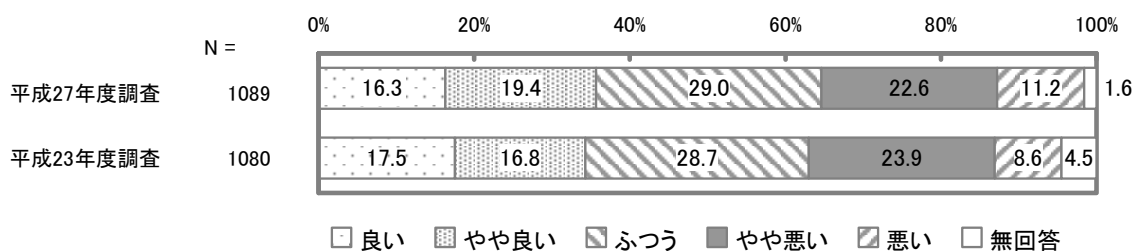
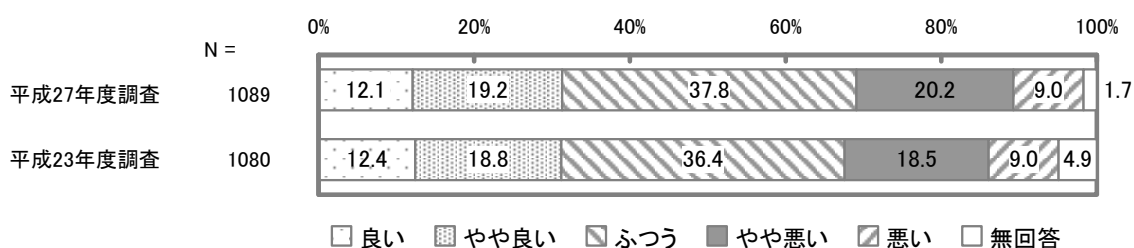


図 居住地域の生活環境の評価

##### 道路の安全性・歩きやすさ



資料：平成27年度市民意識調査